「空より高く」読売新聞4月30日夕刊より

音楽集会で歌った「空より高く」のことを、4月30日の夕刊で初めて知りました。紹介します。

岩手県の地元ラジオ局で震災後、繰り返し流れている歌がある。人の心の強さを空に例えたその歌は、20年ほど前に幼児向けの合唱曲として作られ、各地の保育園の卒業式などで歌い継がれてきた。今、震災でくじけそうになる心を励ます歌としてリクエストが相次いでいる。(浜名恵子)

盛岡市のAMラジオ局「IBC岩手放送」に一本のテープが届いたのは震災から一週間が過ぎた3月19日だった。差出人名は「岩手県にある保育園児」。同封の手紙には「たくさんの子もたちが大変な思いをしていることと思います。ささやかですが、思いをこめて歌ったものです」としたためられていた。

ディレクターの朽木さんが再生すると「僕たちは小さくて何もできないけど、歌いました」という幼い声でメッセージが流れ、続いて子どもたちの歌声がはじけた。歌詞は聴きとりにくく、決してうまくはない。だが、「なにかが伝わってきた」「皆に聴いてもらおう」。当時はまだ震災関連情報一色の放送で、音楽を流すにしても、歌詞が被災者を傷つけないか選曲に神経をとがらせていた時期だったが、「この曲には、大人がゴチャゴチャ考える理屈なんて吹き飛ばしてしまうような力があった」。

曲を流すと、「もう一度聴きたい」というメールが届いた。翌日また流すと、またリクエストが来た。「私たち大人も頑張らなければ」「この歌を録音して聴きながら、友人の無事を祈ってます」。

人空より高 心をもっている
どんな空よりも高 心をもっている
だからもうたがひなくて あきらめなくて
涙をふいて歌ってごらん
君の心よ 高くなれ 空より高く 高くなれ

人海より深 心をもっている
どんな海よりも深 心をもっている
だからもうやがひなくて 背をむかひなくて
見つめてごらん 信じてごらん
君の心よ 深くなれ 海より深く 深くなれ

だからもうたがひなくて
あきらめなくて
涙をふいて歌ってごらん
君の心よ 広くなれ 空より広く 広くなれ
君の心よ 強くなれ 海より強く 強くなれ

宮古市の船員、大久保さんが初めてこの曲を耳にしたのは、電気が復旧せず、テレビも見られなかった頃。薄暗い自宅で、付けっぱなしにしていたラジオから突然、子どもたちの歌声が聞こえた。懸命に大きな口を開けている姿勢が目につかんだ。震災では家族も家も無事だったが、生活の糧だった漁船が流された。将来が不安で、落ち込むことも多かった。なぜか園児たちの声がもう一度聴きたくなって、リクエストしてみた。曲を聴きながら、徐々に前向きな気持ちになっていく自分に気づく。「こんな小さな子どもも応援してくれている 頑張らなくちゃ」。

ラジオ局へテープを送ったのは二戸市の保育園「ちゃいるどスクール」の浪岡幸子園長だった。あの日、激しい揺れは園児の昼寝の時間に起きた。「園舎が壊れるかも」園児らは裸足のまま外に逃げ、雪の中、恐怖と寒さで震えながら、迎えを待った。停電で2日間休園した後、浪岡理事長はこう園児に問いかけた「みんなと同じ年頃の子もが、お母さんと離ればなれになりました。みなさんはまだ小さいけれど、何かできることないかな」。

園児から「元気になる歌を歌おう」と声があがったという。選んだのは、「空より高く」21年前、幼児の音楽教育雑誌で紹介された歌だ。同園では、「つらいことがあっても、この歌詞を思い出して生きて」との願いを込め、毎年、卒園生を送り出す際に歌ってきた。最初はラジオ局に送るつもりはなかったという。ただ、約50人の子もらが懸命に歌う横で、大人たちがみな涙ぐむ姿をみて、園長は「被災者の心にも響くのでは」と思ったという。

「空より高く」は震災後、岩手放送で最もリクエストの多い曲になった。